



英語の「おはなし会」やってます！

図書館では、子どもと本の出会いの場として「おはなし会」を開催しています。なかでも、国際交流員マシュー・サイバートさんのネイティブな発音の英語のおはなし会は必見！ぜひ一度ご来館ください。

おはなし会のスケジュール

曜日	時間	内容
毎週水曜	午後 4 時	夕方のおはなし会 * 第 2、4 水曜は英語のおはなし会
毎週土曜	午後 2 時	お昼のおはなし会
毎週木曜	午前 11 時	あかちゃんのおはなし会

本があたえる奇跡の力

いまの学生たちは、たとえば「ハリー・ポッター」シリーズのようなプロットの展開のはやさ、アイテムとアイデアの面白さで引っぱっていくような作品が最初は好きです。それでも、いっしょにいろいろと読んでいくうちに、キャラクターの性格や心理や成長をきちんとリアルに描きこんだ作品も好きになっていきます。読書も、算数の計算などと似通ったところがあって、くりかえし「練習」していくうちに読解力が身についてくるのかもしれません。

本は、他のメディアではとってかわることのできないさまざまな力を子どもにあたえてくれます。生まれつき染色体異常で身体にも知能にも大きなハンディキャップを抱えたクシュラの例（『クシュラの奇跡』）がそのことをドラマティックに示していま

す。クシュラの両親は子どもに発達障害があると宣告されてもあきらめず、毎日クシュラを抱きしめて、絵本の読み聞かせをしていきました。その結果、5 歳になったころには平均より高い知能をもつと学者に診断され、社会的にもじゅうぶん順応できるまで成長していくのです。

どうすれば子どもが本を読むようになる？

でも、御利益が大きいからといって、子どもに本を押しつけるのは逆効果でしょう。だったら、どんなふうにしていったらいいのでしょうか？ この本のなかでは、そんなことも考えていきたいと思います。

*『子どもを本好きにする 50 の方法<+おすすめの
本 300 冊>』（さくまゆみこ/著 柏書房）より

「クシュラの奇跡—140 冊の絵本との日々（普及版）」ドロシー・バトラー/著 のら書店

これは、複雑な重い障害をもって生まれたクシュラという女の子の“生”のたたかひの記録であり、その成長にかかわった数多くの絵本の物語です。

生後 4 か月から、母親がはじめた絵本の読み聞かせによって、クシュラは、豊かな言葉を知り、広い世界にはいっていきます—

